

資料4 市の概況

4-1 市の位置・地形

◆全国2位の面積と2,000m以上の標高差がある

本市は、静岡県の西部に位置しており、面積は全国2位、静岡県の約2割を占めています。また、海岸線から本市最高峰の中ノ尾根山（2,296m）まで2,000m以上の標高差があります。

◆中山間地から海岸まで多様な地形が存在する

本市の地形は、天竜川中流域の急峻な中山間地、扇状地に広がる下流域の平野部、河岸段丘の三方原台地、そして浜名湖から太平洋の沿岸部によって構成されています。また、長野県諏訪湖に端を発する急流河川の天竜川が本市を縦断し、遠州灘へと注いでおり、西端には汽水湖の浜名湖があります。

なお、浜名湖の面積は64.92km²で全国10番目の大きさ、周囲長は114kmで汽水湖では全国1位です。



本市の地形・標高分布

【資料：国土数値情報】

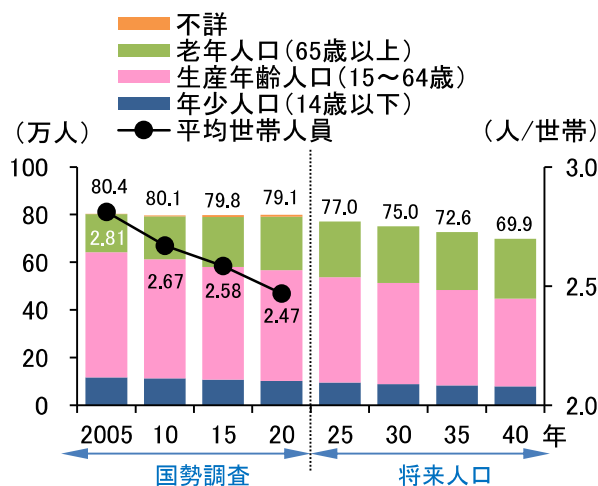
4-2 人口

◆核家族化と少子高齢化が今後も進む

本市の総人口は近年、減少傾向にあり、2020（令和2）年は790,718人でした。高齢人口の増加と年少人口の減少が進む「少子高齢化」が進行しています。

また、平均世帯人員が減少する「核家族化」も進行しており、2020（令和2）年は2.47人/世帯まで減少しました。

「第2期浜松市“やらまいか”人口ビジョン」では、本市の人口は今後も減少し、少子高齢化がさらに進行すると推定されます。



年齢別人口の推移と将来人口

【資料：国勢調査、

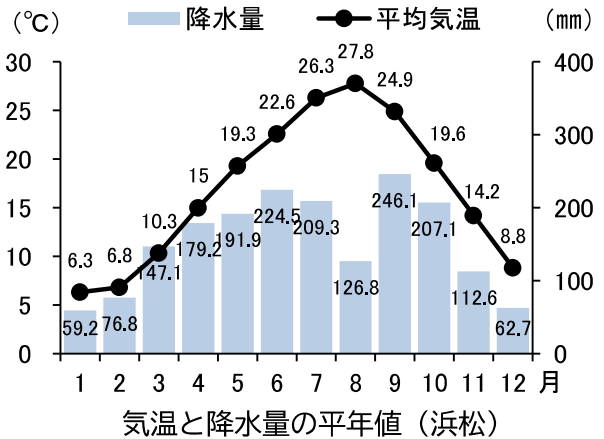
第2期浜松市“やらまいか”人口ビジョン】

4-3 気象

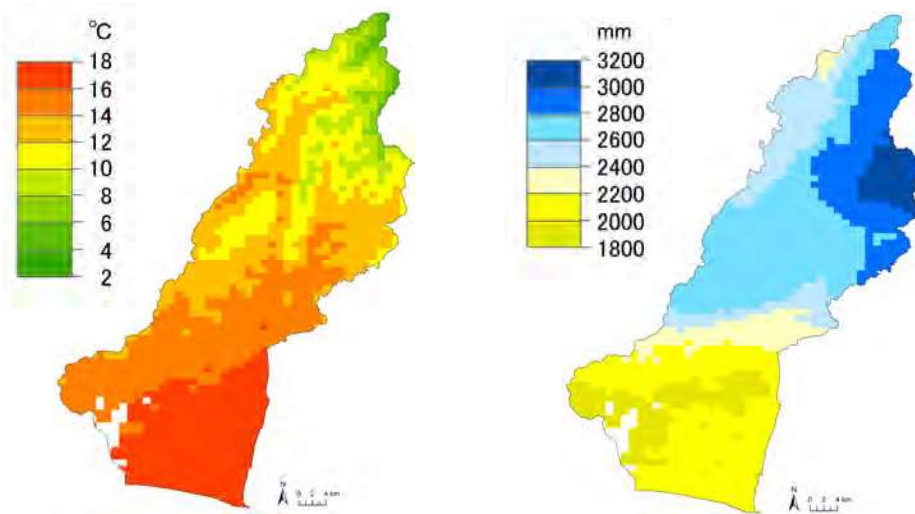
◆地域により気温、降水量の差が大きい

浜松特別地域気象観測所の年平均気温が16.8℃であり、年間降水量は1,843mmです。県内各地と比較して、平均気温は高く、年間降水量は少ない傾向があります。

年平均気温は、標高の低い市街地周辺が最も高く、標高とともに低くなっており、その気温差は15℃以上もあります。また、年間降水量は市南部が少なく、市北東部が多くなっており、降水量の差は1,400mm程度となっています。



【資料：気象庁】



年平均気温と年間降水量の分布（平年値）

【資料：気象庁、国土交通省・国土数値情報】

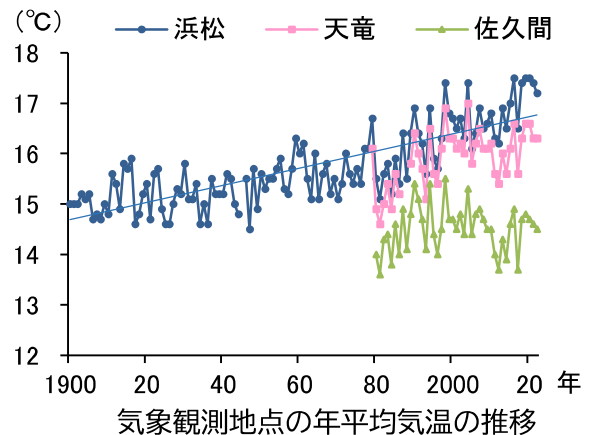
◆日照時間が長く、遠州の空っ風が吹く

本市の日照時間は年間約2,200時間であり、全国でもトップクラスの水準です。この日照時間の長さを利用して果実や花きなどの農業が盛んに行われています。

冬季は「遠州の空っ風」と呼ばれる北西の強い季節風が吹くため、これに対応した防風林や屋敷林、鎮守の森などが地域の生活や農業を守る役割を果たしてきました。

◆本市の年平均気温が上昇している

本市の気象観測地点（浜松、天竜、佐久間）における年平均気温の変化をみると、浜松、天竜は気温が上昇しており、佐久間は横ばい傾向にあることがわかります。特に浜松では、1900年頃と比較して約2℃程度上昇しています。急激な気温の上昇は、農業や生態系などに大きな影響を及ぼすことが懸念されています。

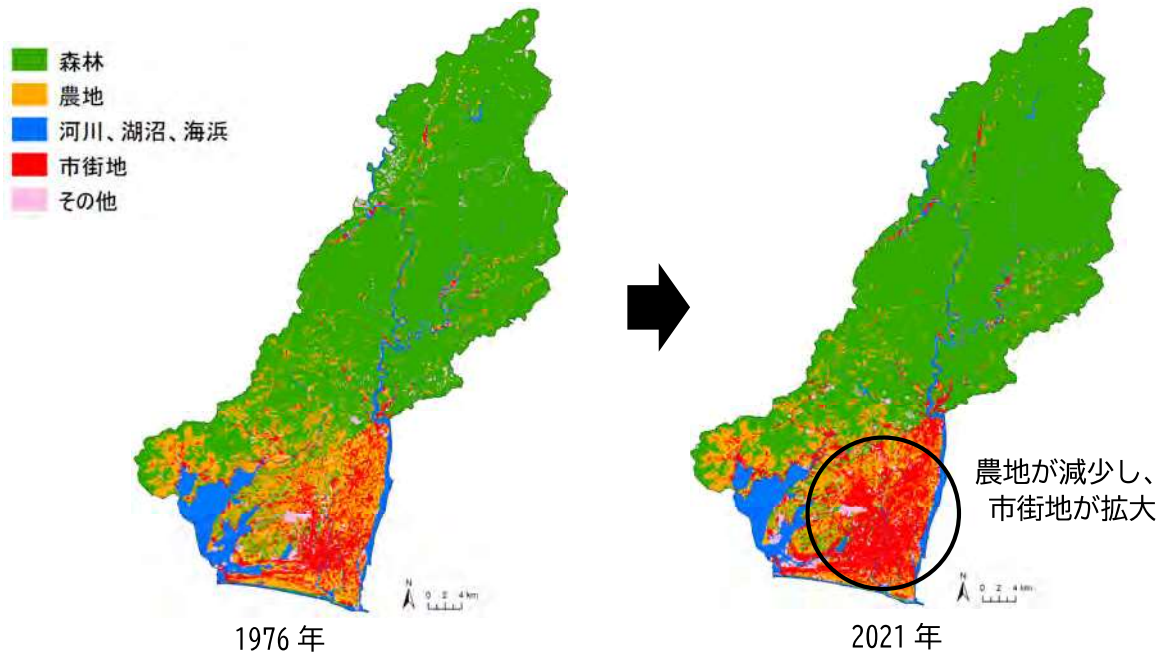


【資料：気象庁】

4-4 土地利用

◆農地などが減少して市街地が増加している

1976（昭和51）年と2021（令和3）年の土地利用の変遷をみると、市南部の市街地が拡大していることがわかります。面積の増減は、市街地（+61.5%）が大きく増加し、農地（-24.6%）や河川・湖沼・海浜（-10.0%）、その他（-20.4%）は減少しました。



土地利用の変遷

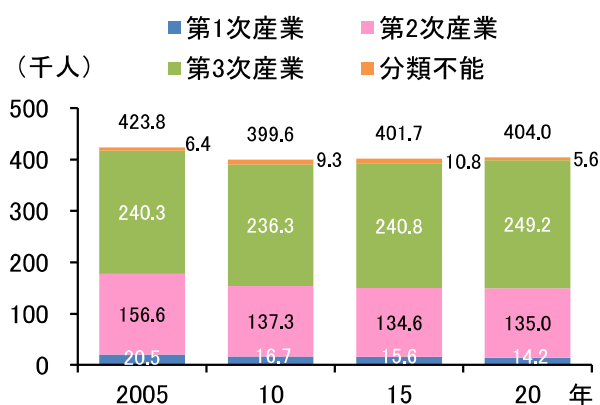
【資料：国土数値情報】

4-5 産業

◆第1次産業及び第2次産業の人口が減少している

2020（令和2）年における本市の産業別就業者数は、第1次産業が14,216人（3.5%）、第2次産業が134,995人（33.4%）、第3次産業が249,229人（61.7%）となっています。2005（平成17）年と比べて第3次産業の就業者数が増加し、第1次産業及び第2次産業は減少しています。

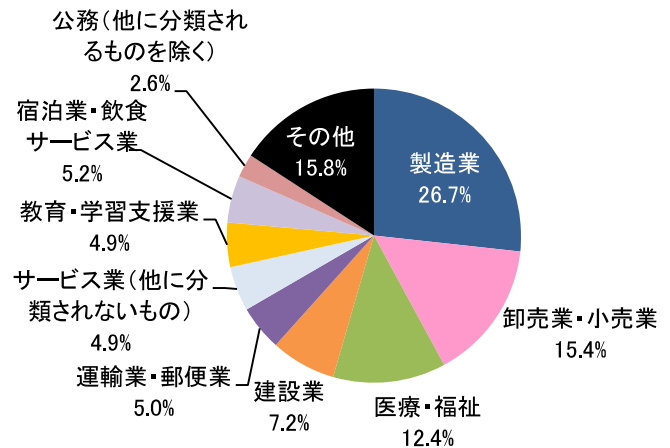
産業別就業者数は製造業が最も多く、次いで、卸売業・小売業、医療・福祉、建設業の順となっています。



注) 分類不能の産業を除く。

産業別就業者数の推移

【資料：国勢調査】



注) 分類不能の産業を除く。

産業別就業者数の内訳（2020年）

【資料：国勢調査】

資料 5 動植物の現状

5-1 動植物

◆標高差 2,000m 以上の環境に多様な動植物が生息・生育する

市域の約 66%は森林地帯となっており、山地上部付近にはブナなどの自然林、山地中部から丘陵地にかけてはスギ・ヒノキの植林が分布しています。また、山地の蛇紋岩地にのみ分布するシブカワツツジ、山地斜面の湿地にはムラサキセンブリやモウセンゴケがみられます。森林にはツキノワグマやカモシカなどの大型哺乳類、清流にはアカイシサンショウウオも生息しています。

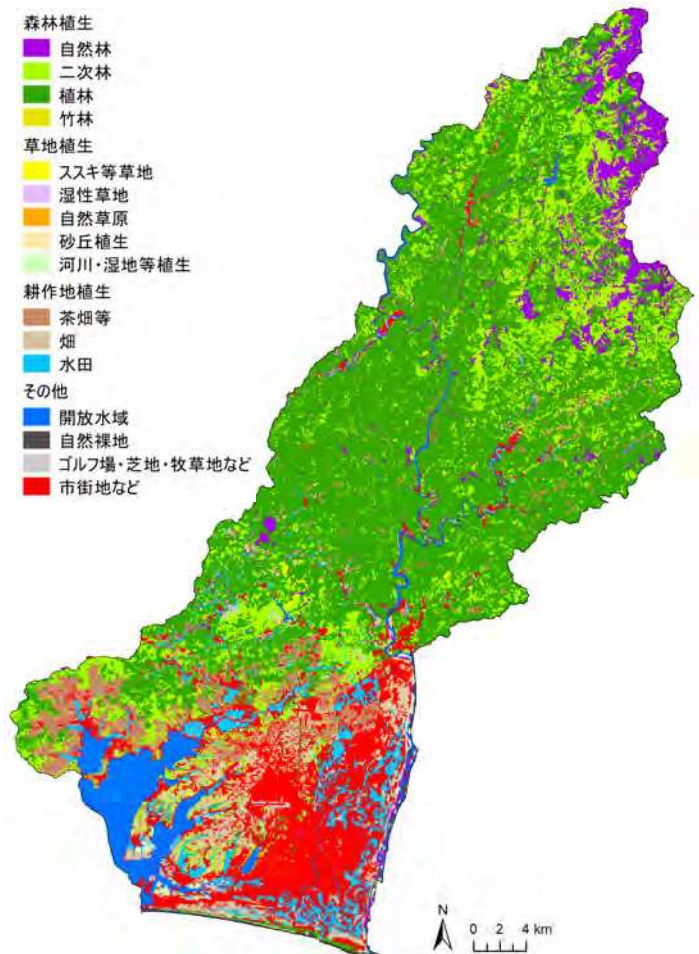
山麓の里山には、水田、畑、果樹園が広がり、手入れされたコナラ林にはヒメカンアオイが育ち、ギフチョウが生息しています。

全国でも有数の長さ流域面積を持つ天竜川が市内を南北に流れ、回遊魚のアユをはじめ多くの魚類が生息しています。広大な河原にはヤナギの河畔林や草草がみられ、中州にはコアジサシが営巣のため飛来します。

海岸部は日本一長い砂浜である遠州灘海岸の中央に位置し、河口や海岸部の広い水域には、カモ類やシギ・チドリ類の渡りの中継地となっています。海岸砂丘にはカワラハンミョウが生息し、緩やかな砂浜にはアカウミガメが産卵に訪れます。

南西部には全国で 10 番目の面積を有する浜名湖（汽水湖）があり、汽水域にはアマモ、湿地にはウラギクなどが生育します。湖にも干潟がみられ、多くの水鳥が訪れます。

このような動植物の中で、シラス、ウナギ、アサリ、ノリ、みかん、お茶、野菜、天竜杉などは特産物となり、本市の産業を支える生物多様性の恵みとなっています。



植生図

【資料：自然環境保全基礎調査】



スギ植林



カモシカ



シブカワツツジ



アカイシサンショウウオ

植物 山地上部にはブナ、標高が下がるとスギやヒノキの植林、コナラなどの落葉広葉樹やエンシュウシャクナゲなどの常緑広葉樹が分布します。また、山地の蛇紋岩地にのみ分布するシブカワツツジ、山地斜面の湿地にはムラサキセンブリやモウセンゴケがみられます。

台地が削られて形成された谷の斜面にはスタジイなどの常緑広葉樹、谷部の湧水による小規模な湿地にはサクラバハンノキなどの湿生植物がみられます。

湧水が流入する河川にはミクリ類、河川敷にはヤナギ類やカワラハハコ、ため池にはガガブタ、ヨシなどの水生植物が生育しています。遠州灘に面した河口や海浜にはハマボウやコウボウムギなどの海浜植物、浜名湖湖岸の干潟にはヨシやウラギク、干潟周辺の浅水域にはアマモなどがみられます。

哺乳類 ツキノワグマやニホンザルなどは主に山地、テン、キツネ、ニホンジカ、ニホンリスなどは山地のほか、標高の低い丘陵地、奥浜名湖周辺などの里山に生息しています。ノウサギやホンドタヌキ、コウバモグラは山地から低地にかけて広く分布しています。

鳥類 山地から丘陵地にかけては、オオルリ、アカショウビン、アカゲラ、クマタカなど、溪流沿いやダム湖などではオシドリやカワガラスなどがみられます。アカゲラ、メジロなどの樹林性鳥類、オオヨシキリなどのヨシ原の鳥類、シギ・チドリ類やカモ類、サギ類、カモメ類、カワセミなどの水辺性の鳥類が多く確認されています。

両生類 山地から丘陵地にかけてアカイシサンショウウオ、ナガレタゴガエル、アズマヒキガエル、モリアオガエル、アカハライモリなどがみられます。丘陵地から低地にかけてはため池や水田などの湿地環境が多く、ヌマガエル、トノサマガエルなどの多くの両生類がみられます。

爬虫類 山地から低地にかけての広い範囲でアオダイショウ、シマヘビ、カナヘビ、ニホントカゲなどがみられます。また、流水域ではニホニシガメ、止水域ではクサガメ、浜名湖周辺と天竜川河口部にはスッポンがみられます。

魚類 山地の渓流域や支流では、アマゴ、タカハヤなどがみられます。上流から中流では、アユ、オイカワ、カワヨシノボリなど、下流では、ギンブナ、シマヨシノボリ、ウツセミカジカ、河口ではボラ、スズキ、マハゼなどがみられます。また、河川中下流部や池沼、用水路などではミナミメダカ、ホトケドジョウ、ヤリタナゴなどが確認されています。

昆虫類 北部の山地では、エゾハルゼミやヒメオオクワガタ、キベリタテハなどの主に樹林性や溪流性の昆虫類がみられます。山地下部から丘陵地にかけては、ミヤマセセリ、カブトムシなどの樹林性の昆虫類、台地や低地ではホシササキリ、ツバメシジミなどの草地性の昆虫類がみられます。

その他 甲殻類は、山地の細流や河川上流から中流にかけてサワガニ、ヤマトヌマエビ、中流から下流ではテナガエビ、モクスガニ、河口ではアリアケモドキ、イソガニなどがみられます。

水生貝類は、河川上流から中流にかけてカワニナ、中流から下流ではイシマキガイ、サカマキガイ、水路や水田ではヒメタニシ、河口域ではヤマトシジミ、干潟ではウミニナ、フトヘナタリなどがみられます。陸産貝類は、ブナ林に生息するヒメギセル、渓流域の落葉樹林に生息するホウライジギセル、石灰岩地に生息するミカワマイマイなどがみられます。

5-2 貴重種

◆約 700 種以上の貴重種が生息・生育する

本市において確認・記録されている動植物のうち、静岡県レッドデータブックに記載されている種のほか、「文化財保護法」「種の保存法」「静岡県希少野生動植物保護条例」に指定されている種を含めて「貴重種」としました。本市において確認・記録されている貴重種は、植物が 384 種、動物が 403 種、合計 787 種です。また、本市では、アカウミガメ、ギフチョウ、ヤリタナゴ、コアジサシなどの貴重種について保護活動を行っています。



アカウミガメ



コアジサシ

貴重種の概況

カテゴリー区分	基本概念	本市での確認種数		
		植物	動物	合計
絶滅 (EX)	静岡県で既に絶滅したと考えられる種	1	3	4
野生絶滅 (EW)	飼育・栽培下でのみ存続している種	0	0	0
絶滅危惧 I 類	絶滅の危機に瀕している種	86	63	149
I A 類 (CR)	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの	21	27	48
I B 類 (EN)	I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの	65	36	101
絶滅危惧 II 類 (VU)	絶滅の危険が増大している種	146	70	216
準絶滅危惧 (NT)	存続基盤が脆弱な種	42	85	127
情報不足 (DD)	評価するだけの情報が不足している種	5	36	41
絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)	地域的に孤立している地域個体群で、絶滅のおそれが高いもの	0	0	0
要注目種 (N)	静岡県独自のカテゴリー	100	76	176
現状不明 (N-I)	現状が不明な種	16	8	24
分布上注目種 (N-II)	絶滅の危険性は小さいが、分布上注目される種	10	26	36
部会注目種 (N-III)	その他各部会で注目すべきと判断した種	74	42	116
静岡県レッドデータブック掲載種 合計		380	333	713
静岡県レッドデータブック掲載種 以外		4	70	74
貴重種の合計		384	403	787

【資料：静岡県レッドリスト 2020 ほか】

本市が実施している貴重種の保護活動の例

アカウミガメ	浜松市の天然記念物である浜松海岸のアカウミガメ及びその産卵地の保護のため、保護監視、生態調査、産卵地内清掃、ウミガメ教室などを行っています。
ギフチョウ	「浜松市ギフチョウの保護に関する条例」に基づき、ギフチョウの保護監視活動をしています。なお、「渋川自然環境保全地域」においては、ギフチョウの捕獲・殺傷やヒメカンアオイ（幼虫の食草）の採取・損傷を禁止しています。
ヤリタナゴ	ヤリタナゴ、マツカサガイの保護のための環境に配慮した排水路工事、放流会などを行っています。
コアジサシ	繁殖地を保全するため、舞阪海岸の占用区域での立入禁止柵を維持していくための事業を行っています。

市内で確認された貴重種 (1)

絶滅 (EX) (既に絶滅したと考えられる動植物)	
植物	ミカワシオガマ
動物	チャマダラセセリ、スジグロチャバナセセリ北海道・本州・九州亜種、シルビアシジミ

市内で確認された貴重種 (2)

絶滅危惧 I A 類(CR) (ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い動植物)	
植物	ヒモラン、デンジソウ、ヤマソテツ、ヒロハヒメウラボシ、マルバオモダカ、シバナ、タヌキノシヨクダイ、ヒロハノアマナ、キソエビネ、キエビネ、キンセイラン、ホテイラン ^{*1} 、カンラン、イワチドリ、クモイジガバチ、ムカゴサイシン、ガンゼキラン、ムカゴトンボ、イッスンテンツキ、ベニバナヤマシャクヤク、フサタヌキモ
動物	ハラシギ ^{*3} 、カンムリウミスズメ ^{*2} 、イヌワシ ^{*2*3} 、ブッポウソウ、チゴモズ、アカイシサンショウウオ ^{*3} 、ナゴヤダルマガエル、アカウミガメ ^{*1*2} 、ヤリタナゴ ^{*1} 、カワバタモロコ ^{*1*3} 、ヤマトイワナ、トビハゼ、コバネアオイトトンボ、ベニイトトンボ、ヒヌマイイトトンボ、オオイトトンボ、グンバイトンボ、キイロヤマトンボ、エゾトンボ、ベッコウトンボ ^{*3} 、キトンボ、オオキトンボ、ハリグロチャバネセセリ、ヒメヒカゲ本州西部亜種 ^{*1} 、タケノコカワニナ、オモイガケナマイマイ ^{*3} 、マツカサガイ
絶滅危惧 I B 類(EN) (近い将来における野生での絶滅の危険性が高い動植物)	
植物	イチヨウシダ、コガネシダ、ミドリワラビ、ヒロハアツイタ、オニイノデ、ミョウギシダ、クラガリシダ、ヒツジグサ、オオヤマレンゲ、ムサシモ、リュウノヒゲモ、ホンゴウソウ、チャボシライトソウ、ミカワバイケイソウ、コシノコバイモ、ユウシュンラン、マヤラン、ハコネラン、カモメラン、ヒロハツリシュスラン、ダイサギソウ、オオミズトンボ、ヒナラン、フガクズムシソウ、セイタカスズムシソウ、イイヌマムカゴ、トキソウ、ヒメシャガ、ステゴビル、ゴマシオホシクサ、クロホシクサ、トダスゲ、オオクグ、ミカワシンジュガヤ、オキナグサ、タチモ、イヌハギ、コバノチョウセンエノキ、アゼオトギリ、ミヤマスミレ、ヒトツバハギ、ミズキカシグサ、ヒメビシ、タチバナ、コギシギシ、ナガバノイシモチソウ、オオツルコウジ、クリンソウ、ナガボナツハゼ、ハナムグラ、ムラサキ、ヤマホオズキ、シシンラン、マルバノサワトウガラシ、ミカワタヌキモ、ヒメタヌキモ、ヒメミミカキグサ、ミズネコノオ、ミズトラノオ、ゴマクサ、ヒメシロアサザ、ネコヤマヒゴタイ、ヒメヒゴタイ、イワツクバネウツギ、フキヤミツバ
動物	サンカノゴイ、ヨシゴイ、ミゾゴイ、ササゴイ、ツルシギ、コアジサシ、オジロワシ ^{*2*3} 、チュウビ ^{*3} 、コノハズク、コミミズク、ヤマセミ、キイロチョウ ^{*3} 、サンショウクイ、オオセッカ ^{*3} 、スナヤツメ北方種、スナヤツメ南方種、ニホンウナギ、トウカイコガタスジシマドジョウ、ホトケドジョウ、トウカイナガレホトケドジョウ、アカザ、コガネチワラスボ、ニホンカワトンボ、キイロサナエ、フタスジサナエ、トラフトンボ、ハッチョウトンボ、ベニモンカラスジジミ、ウラナミジャノメ本土亜種、クモマツマキチョウ八ヶ岳・南アルプス亜種、オオチャバネヨトウ、ゲンゴロウ ^{*3} 、ナニワクチミゾガイ、ホウライジギセル、カタマメマイマイ、ミカワマイマイ
絶滅危惧 II 類(VU) (絶滅の危険が増大している動植物)	
植物	スギラン、ミズニラ、マツバラ、オオアカウキクサ、アカウキクサ、サンショウモ、タキミシダ、ナカミシシラン、アイコハチジョウシダ、ハチジョウシダモドキ、ユノミネシダ、イワウサギシダ、ヒノキシダ、テバコワラビ、ニセコクモウクジャク、イヨクジャク、ヒロハヤブソテツ、ツクシヤブソテツ、アツギノヌカイタチシダマガイ、ヌカイタチシダマガイ、タニヘゴ、タカノハウラボシ、オニバス、カギガタアオイ、イワタカンアオイ、シロモジ、ヒトツバテンナンショウ、ヒンジモ、アギナシ、マルミスブタ、スブタ、トチカガミ、サガミトリゲモ、イトトリゲモ、トリゲモ、イトモ、ツツイトモ、イトクズモ、カワツルモ、キバナノアマナ、チャボホトトギス、ナツエビネ、ナギラン、コアツモリソウ、クマガイソウ、イチヨウラン、マツラン、モミラン、ハルザキヤツシロラン、サギソウ、ミズトンボ、ウチヨウラン、ニョホウチドリ、エンシュウムヨウラン、スズムシソウ、フウラン、ムカデラン、ツレサギソウ、オオヤマサギソウ、ヤマトキソウ、キバナノショウキラン、カゲロウラン、カキツバタ、ミズアオイ、オオミクリ、ヤマトミクリ、ヒメミクリ、シラタマホシクサ、イトテンツキ、ハリガネスゲ、サナギスゲ、ホソバヒカゲスゲ、サウヒメスゲ、キシウナキリスゲ、ジングウスゲ、カガシラ、ハタベカンガレイ、ミギワトダシバ、ヒナザサ、ウンヌケモドキ、ウンヌケ、フクジュソウ、カザグルマ、ハコネシロカネソウ、セツブンソウ、ミスミソウ、タマカラマツ、フッキソウ、コウヤミズキ、ヤシャビシャク、ヤブサンザシ、マツノハマンネングサ、ミヤマトベラ、ヒナノカンザシ、サクラスミレ、キスミレ、ノウルシ、チョウセンナニワズ、エゾハタザオ、クモマナズナ、ミヤマツチトリモチ、ヌカボタデ、イシモチソウ、オオビランジ、エンシュウツリフネソウ、クモイコザクラ、コイワザクラ、シナノコザクラ、カインサラサドウダン、キョウマルシャクナゲ、オオヤマツツジ、ナガバジュズネノキ、ホソバノツルリンドウ、ムラサキセンブリ、ヒメナエ、ハシドイ、オオアブノメ、ノタヌキモ、イヌタヌキモ、タヌキモ、ムラサキミミカキグサ、ラショウモンカズラ、ヤマジソ、シマジタムラソウ、ヤマジノタツナミソウ、ヒメナミキ、スズメノハコベ、イズコゴメグサ、ハマウツボ、ツルギキョウ、バアソブ、キキョウ、ガガブタ、アサザ、トダイハハコ、ヤナギノギク、シブカワシロギク、フジバカマ、ホソバニガナ、クモマニガナ、タカサゴソウ、アキノハハコグサ、ウラギク、ニッコウヒョウタンボク、ミシマサイコ、ホソバハナウド
動物	ノレンコウモリ、チチブコウモリ、ウズラ、トモエガモ、ヒクイナ、ヨタカ、シロチドリ、オグロシギ、オオソリハシシギ、ダイシャクシギ、ホウロクシギ、アカアシシギ、コアアシシギ、タカブシギ、オジロトウネン、ヒバリシギ、ウズラシギ、ハマシギ、キリアイ、タマシギ、ハチクマ、ハイタカ、サシバ、クマタカ ^{*3} 、アオバズク、アカショウビン、ハヤブサ ^{*3} 、コシアカツバメ、

市内で確認された貴重種 (3)

絶滅危惧Ⅱ類(VU) (絶滅の危険が増大している動植物)	
動物	イジマムシクイ ^{※2} 、ウチヤマセンニュー、マミジロ、コサメビタキ、コジュリン、ヒガシヒダサンショウウオ ^{※3} 、ハコネサンショウウオ、ニホンアカガエル、イシカワシラウオ、サツキマス (アマゴ)、ミナミメダカ、カマキリ、ウツセミカジカ (淡水性両側回遊型)、ヒモハゼ、モートンイトトンボ、アオヤンマ、タバサナエ、コサナエ、ハネビロエソトンボ、ホッケミズムシ、ウラナミアカシジミ、クロシジミ、ミヤマシジミ、クロツバメシジミ東日本亜種、ギフチョウ ^{※2} 、カワラハンミョウ、ニセコケシゲンゴロウ、ルイスツブゲンゴロウ、キタノツブゲンゴロウ、オオミズスマシ、ヒメミズスマシ、ミズスマシ、キボシチビコツブゲンゴロウ、ヨツボシカミキリ、ウスレナグモ、ウスコミミガイ、ミズコハクガイ、キバサナギガイ、ヤマトキバサナギガイ、ツバクロイワギセル、ミノブマイマイ、マイマイ属の一種
準絶滅危惧(NT) (存続基盤が脆弱な動植物)	
植物	テンリュウヌリトラノオ、ジュンサイ、コアマモ、シラン、マメツタラン、ムギラン、ミヤマムギラン、エビネ、キンラン、セッコク、タシロラン、クロヤツシロラン、ウスギムヨウラン、ミクリ、ナガエミクリ、クロイヌノヒゲ、ヒメコヌカグサ、ヤマシャクヤク、キバナハナネコノメ、ツメレンゲ、タコノアシ、サクラバハノキ、ミズマツバ、ウスゲチョウジタデ、クロミノニシゴリ、ホソバシャクナゲ、シブカワツツジ、イヌセンブリ、クサナギオゴケ、スズサイコ、アオホオズキ、イヌノフグリ、タチキランソウ、マネキグサ、ミゾコウジュ、カリガネソウ、オオヒキヨモギ、サワギキョウ、ウタムキアザミ、イズハハコ、カワラニガナ、タカネコウリンカ
動物	カワネズミ、コキクガシラコウモリ、キクガシラコウモリ、モモジロコウモリ、ムササビ、カヤネズミ、ヤマドリ、シノリガモ、ミコアイサ、クイナ、タゲリ、イカルチドリ、セイタカシギ、ミユビシギ、オオタカ、フクロウ、アリスイ、オオアカゲラ、サンコウチョウ、ミヤマホオジロ、アカハライモリ、トノサマガエル、ツチガエル、モリアオガエル、カジカガエル、ニホンイシガメ、カジカ、エドハゼ、ホソミオツネトンボ、オツネトンボ、アオハダトンボ、ネアカヨシヤンマ、カトリヤンマ、ヨツボシトンボ、マイコアカネ、クチナガコオロギ、ハマスズ、ヤマトマダラバツタ、ミヤケミズムシ、ウラクロシジミ、ウラギンスジヒョウモン、ツマジロウラジャノメ本州亜種、ウラジャノメ本州亜種、クモガタヒョウモン、ホシミスジ東北・中部地方亜種、カバイロシャチホコ、クビグロケンモン、オオヒョウタンゴミムシ、クロゲンゴロウ、コマルケシゲンゴロウ、キベリクロヒメゲンゴロウ、コウベツブゲンゴロウ、コガムシ、ガムシ、ヒゲコガネ、ヤマトオサムシダマシ、ガガブタネクイハムシ、ハマベゾウムシ、カネコトタテグモ、キノボリトタテグモ、キシノウエトタテグモ、オニグモ、コガネグモ、ベニゴマオカタニシ、マルタニシ、オオタニシ、クロダカワニナ、ヨシダカワザンショウガイ、ホラアナゴマオカチグサ、モノアラガイ、ヒラマキミズマイマイ、ヒラマキガイモドキ、ナタネキバサナギガイ、クチマガリスナガイ、ナタネガイモドキ、ヒメギセル、オクガタギセル、ナガオカモノアラガイ、スジキビ、カサネシタラガイ、イシマキシロマイマイ、ミヤマヒダリマキマイマイ、イシガイ、ヤマトシジミ、マシジミ
情報不足(DD) (評価するだけの情報が不足している動植物)	
植物	ヒメコウホネ、テンリュウカンアオイ、アオガシ、イナベアザミ、ドロニガナ
動物	クロホオヒゲコウモリ、コテングコウモリ、テングコウモリ、ニホンモモンガ、ヤマネ ^{※2} 、ヤマシギ、オオコノハズク、トラフズク、ナガレタゴガエル、ニホンスッポン、シロマダラ、アブラボテ、ドジョウ、クルマサヨリ、ウスバカマキリ、オオオカメコオロギ、ババアメンボ、ヒメタイコウチ、キボシツブゲンゴロウ、クロホシコガシラミズムシ、コガシラミズムシ、ヤマトマルドロムシ、ダイコクコガネ、オオチャイロハナムグリ、アシナガミゾドロムシ、ヒメビロウドカミキリ、ケブカマルクビカミキリ、ツヤネクイハムシ、バパスゲヒメゾウムシ、トウカイヤマトガイ、カワネミジンツボ、イボイボナメクジ、サドタカキビ、ヤマコウラナメクジ、オオコウラナメクジ、ミニビロウドマイマイ
要注目種・現状不明(N-I) (現状が不明な動植物)	
植物	アオチャセンシダ、ミズバショウ、イバラモ、ヒロハノエビモ、イヌイ、ヒゲノガリヤス、ヤマキケマン、モメンヅル、ヒロハノカワラサイコ、ハシバミ、フジスミレ、キバナカワラマツバ、トネリコ、サツキヒナノウスツボ、ドクゼリ、カワラボウフウ
動物	マダラナニワトンボ、クギヌキハサミムシ、イトアメンボ、オオヒカゲ、リュウガシメクラチビゴミムシ、マルガタゲンゴロウ ^{※3} 、ヤマトモンシデムシ、オオフタホシマダラソコガネ
要注目種・分布上注目種等(N-II) (絶滅の危険性は小さいが、分布上注目される動植物)	
植物	ヒメハシゴシダ、タカサゴシダ、タカネサギソウ、ニシノホンモンジスゲ、マシカクイ、ミカワチャルメルソウ、ヒロハコンロンカ、シブカワニンジン、ミツガシワ、ホクチアザミ
動物	ヒメホオヒゲコウモリ、オオジシギ、オオウシ ^{※2※3} 、ハイイロチュウヒ、ノビタキ、ヒガシニホントカゲ、カワムツ、タカハヤ、タモロコ、ニシシマドジョウ、カワヨシノボリ、ビリンゴ、ギンイチモンジセセリ、コキマダラセセリ、オオチャバネセセリ、オナガシジミ、コムラサキ、クモバニヒカゲ本州亜種、ベニヒカゲ本州亜種、クロヒカゲモドキ、オオミスジ、アケボノユウレイグモ、シロタマヒメグモ、ミドリアシナガグモ、イナズマクサグモ、エンシュウナミハグモ

市内で確認された貴重種 (4)

要注目種・部会注目種(N-Ⅲ) (その他各部会で注目すべきと判断した動植物)	
植物	ハマハナヤスリ、チチブホラゴケ、エダウチホングウシダ、コタニワタリ、イワイヌワラビ、ウスバミヤマノコギリシダ、テツホシダ、ミゾシダモドキ、ツクシイワヘゴ、ヌカイタチシダモドキ、アオネカズラ、ウスバサイシン、バリバリノキ、ミツバテンナンショウ、ミズオオバコ、ヒナノシヤクジョウ、アマナ、カタクリ、ホソバナアマナ、ギンラン、ベニシュスラン、アケボノシュスラン、シュスラン、ホザキイチヨウラン、ノビネチドリ、ヒメフタバラン、アオフタバラン、アリドオシラン、コハクラン ^{※3} 、ヒトツボクロ、ヒメニラ、オオキツネノカミソリ、コウキヤガラ、ヤマアゼスゲ、マンシュウクロカワスゲ、ヤブスゲ、クジュウクリテンツキ、コマツカサススキ、マツカサススキ、ケシソウ、コウヤザサ、ハスノハカズラ、キタザワブシ、イチリンソウ、ククザキイチゲ、アズマイチゲ、レンゲショウマ、オオカラマツ、ツゲ、ミヤマモミジイチゴ、ナガボノワレモコウ、カラハナソウ、ミヤマニガウリ、ヒゴスミレ、イヨフウロ、ナガバノウナギツカミ、ヒゲネワチガイソウ、ホソバハマアカザ、ミドリアカザ、イナモリソウ、フナバラソウ、アシタカジャコウソウ、シソバタツナミ、キヨスミウツボ、ヒキヨモギ、イワシャジン、シデシャジン、ミスギク、ノニガナ、ミヤマコウモリソウ、オナモミ、レンブクソウ、ナベナ、ヤマヒョウタンボク
動物	ニホンリス、ハタネズミ、ゴイサギ、ミサゴ、コチョウゲンボウ、アズマヒキガエル、ネバタゴガエル、クサガメ、ニホンヤモリ、ガンテンイシヨウジ、イッセンヨウジ、テングヨウジ、アカメ、ユゴイ、カワアナゴ、チチブモドキ、オカメハゼ、ノボリハゼ、ヒナハゼ、スルガツユムシモドキ、ハネナガイナゴ、セグロイナゴ、エサキアメンボ、ミゾナシミズムシ、コオイムシ、タガメ ^{※3} 、フジミドリシジミ、ヒメジャノメ、サトキマダラヒカゲ、オオムラサキ、ギンボシヒョウモン本州亜種、タナカツバハネゴミムシ、アイヌハンミョウ、シマゲンゴロウ、ケシゲンゴロウ、キベリマメゲンゴロウ、ムツボシツヤコツブゲンゴロウ、マルヒラタガムシ、スジヒラタガムシ、アカマダラハナムグリ、ヘイケボタル、アサカミキリ
静岡県レッドデータブック掲載種以外	
植物	コケホラゴケ ^{※4} 、オクタマシダ ^{※4} 、ミノコバイモ ^{※4} 、カワヂシャ ^{※4}
動物	カモシカ ^{※2} 、ヒシクイ ^{※2※4} 、マガン ^{※2※4} 、オシドリ ^{※4} 、アカハジロ ^{※4} 、アカオネツタイチヨウ ^{※4} 、シロハラミズナギドリ ^{※4} 、オオヨシゴイ ^{※3※4} 、チュウサギ ^{※4} 、カラシラサギ ^{※4} 、ハラサギ ^{※4} 、クロツラハラサギ ^{※3※4} 、ケリ ^{※4} 、ミヤコドリ ^{※4} 、コシヤクシギ ^{※4} 、ツバメチドリ ^{※4} 、ズグロカモメ ^{※4} 、オオセグロカモメ ^{※4} 、ノジコ ^{※4} 、キンブナ ^{※4} 、ヤマトセンブリ ^{※4} 、アシナガモモトスカシバ ^{※4} 、ツマグロキチヨウ ^{※4} 、マエアカヒトリ ^{※4} 、シロホソバ ^{※4} 、カギモンハナオイアツバ ^{※4} 、ジャアナヒラタゴミムシ ^{※4} 、キボシケシゲンゴロウ ^{※4} 、オオマルケシゲンゴロウ ^{※4} 、シジミガムシ ^{※4} 、オオセイボウ ^{※4} 、トゲアリ ^{※4} 、キオビホオナガスズメバチ ^{※4} 、ヤマトアシナガバチ ^{※4} 、モンズズメバチ ^{※4} 、アケボノクモバチ ^{※4} 、スギハラクモバチ ^{※4} 、フタモンクモバチ ^{※4} 、アカオビケラトリバチ ^{※4} 、ヤマトスナハキバチ本土亜種 ^{※4} 、フジジガバチ ^{※4} 、クロマルハナバチ ^{※4} 、ナミルリモンハナバチ ^{※4} 、ニッポンヒロワラジムシ ^{※4} 、オサガニ ^{※4} 、イボキサゴ ^{※4} 、ウミニナ ^{※4} 、フトハナタリ ^{※4} 、カワコザラガイ ^{※4} 、オオギセル ^{※4} 、ウネナシトマヤガイ ^{※4} 、ハマグリ ^{※4} 、エルベリギセル ^{※4} 、オオウエキビ ^{※4} 、カドコオオベソマイマイ ^{※4} 、クリイロカワザンショウ ^{※4} 、ゴマオカタニシ ^{※4} 、サドヤマトガイ ^{※4} 、スカシベッコウ ^{※4} 、タカキビ ^{※4} 、ハクサンベッコウ ^{※4} 、ハチノコギセル ^{※4} 、ヒメカサキビ ^{※4} 、ヒメハリマキビ ^{※4} 、ヒメヒロウドマイマイ ^{※4} 、ヒラシタラガイ ^{※4} 、ヒロウドマイマイ ^{※4} 、ホソヤカギセル ^{※4} 、ミカワギセル ^{※4} 、ミドリベッコウ ^{※4}

注 1) カテゴリーは静岡県レッドデータブック (動物：2019、植物：2020) をベースとした。

注 2) ※1 は「静岡県希少野生動植物保護条例」に基づき「指定希少野生動植物」に指定されている種。

注 3) ※2 は「文化財保護法」に基づき「天然記念物」に指定されている種。

注 4) ※3 は「種の保存法」に基づき「国内希少野生動植物種」に指定されている種。

注 5) ※4 は環境省レッドリスト 2020 のみに指定されている種で、静岡県レッドデータブック (動物：2019、植物：2020) に指定されていない種。

●巨樹・巨木の天然記念物が指定・認定されている

本市には、「北浜の大カヤノキ」「京丸のアカヤシオ及びシロヤシオ群生地」「雲立のクス」などの天然記念物が指定されています。そのほか、2016 (平成 28) 年度から指定・登録文化財とは別に、緩やかな保護・活用制度となる浜松地域遺産認定制度 (通称：認定文化財制度) を導入し、天然記念物の認定文化財などもあります。



雲立のクス

5-3 外来種

◆特定外来生物*26種が確認されている

「外来生物法」では、生態系や人の生命・身体、農林水産業に悪影響を与えるおそれのある外来生物を「特定外来生物」として指定し、飼養・栽培・保管・運搬・販売・輸入などを規制しています。

本市では、特定外来生物として、オオキンケイギク、アレチウリなど植物10種、アライグマ、クリハラリス、ヌートリア、オオクチバス、カダヤシなど動物16種の合計26種が確認されています。



オオキンケイギク



ヌートリア

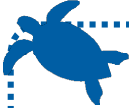
市域で確認・記録のある特定外来生物・生態系被害防止外来種

項目	項目	対象種
植物	特定外来生物	アゾラ・クリスタータ、ボタンウキクサ、オオフサモ、アレチウリ、オオカワヂシャ、オオキンケイギク、ミズヒマワリ、オオハンゴンソウ、ナルトサワグク、ブラジルチドメグサ
	生態系被害防止外来種* (特定外来生物を除く)	コンテリクラマゴケ、フサジュンサイ、ナガバオモダカ、オオカナダモ、コカナダモ、アマゾンチカガミ、シンテツポウユリ、ヒメヒオウギズイセン、キショウブ、ハナニラ、アオノリュウゼツラン、アツバキミガヨラン、ノハカタカラクサ、ホテイアオイ、コゴメイ、アサハタヤガミスゲ、シュロガヤツリ、メリケンガヤツリ、コヌカグサ、メリケンカルカヤ、ハルガヤ、カモガヤ、シナダレスズメガヤ、オニウシノケグサ、ネズミムギ、ホソムギ、ヒロハノウシノケグサ、ボウムギ、ドクムギ、ノゲナシドクムギ、ネズミホソムギ、オオクサキビ、シマスズメノヒエ、キシユウスズメノヒエ、チクゴスズメノヒエ、アメリカスズメノヒエ、タチスズメノヒエ、オオアワガエリ、ホテイチク、モウソウチク、ハチク、クロチク、マダケ、セイバンモロコシ、ナギナタガヤ、アツミゲシ、ヒイラギナンテン、トウロウソウ、メラノキシロンアカシア、イタチハギ、エニシダ、アレチヌスビトハギ、ハリエンジュ、ビワ、タチバナモドキ、トキワサンザシ、カザンデマリ、オオキバナカタバミ、ナンキンハゼ、コマツヨイグサ、ニワウルシ、フヨウ、ハルザキヤマガラシ、カラシナ、オランダガラシ、シャクチリソバ、ツルドクダミ、ヒメツルソバ、ヒメスイバ、ナガバギシギシ、エゾノギシギシ、ムシトリナデシコ、マンテマ、ホコガタアカザ、バクヤギク、ツルムラサキ、ヒメマツバボタン、オオフタバムグラ、ツルニチニチソウ、アメリカネナシカズラ、アメリカアサガオ、マルバアメリカアサガオ、ノアサガオ、マルバアサガオ、ホシアサガオ、ヨウシュチョウセンアサガオ、シロバナチョウセンアサガオ、ケチョウセンアサガオ、トウネズミモチ、イケノミズハコベ、フサフジウツギ、ヤナギバルイラソウ、オオバナイトタヌキモ、シチヘンゲ、ヤナギハナガサ、アレチハナガサ、ハマクマツヅラ、ダキバアレチハナガサ、オオブタクサ、アメリカセンダングサ、リュウノウギク、イソギク、イワインチン、キクタニギク、ハルシャギク、ヒメジョオン、ペラペラヨメナ、ケナシヒメムカシヨモギ、フランスギク、アラゲハンゴンソウ、セイタカアワダチソウ、オオアワダチソウ、ユウゼンギク、アカミタンポポ、セイヨウタンポポ、オオオナモミ、ウチワゼニクサ、カミヤツデ
動物	特定外来生物※	クリハラリス、ヌートリア、アライグマ、ガビチョウ、ソウシチョウ、ウシガエル、アカミミガメ†、カダヤシ、ブルーギル、オオクチバス、コクチバス、アカボシゴマダラ、アメリカザリガニ†、カワヒバリガイ、セアカゴケグモ、ハイイロゴケグモ
	生態系被害防止外来種(特定外来生物を除く)	アフリカツメガエル、ホソオチチョウ、カムルチー、ソウギョ、タイリクバラタナゴ、ニジマス、スクミリンゴガイ、ムラサキイガイ

※:現在市内に定着していないカナダガン、チャネルキャットフィッシュ、ヒアリ、アカカミアリは含めていない

†:条件付特定外来生物(特定外来生物に指定された生物のうち、通常の特定外来生物の規制の一部を、当分の間、適用除外とする生物)

【資料：平成21・22年度浜松市生物多様性情報整備事業、浜松市環境配慮指針策定支援業務 ほか】



コラム

脅威の繁殖力を持つ植物、県内にも分布拡大 特定外来生物・ナガエツルノゲイトウ

■分布・生態・被害状況

ナガエツルノゲイトウは、南アメリカを原産地とする水辺に生育する植物です。本市では未確認ですが、静岡県内では静岡市（巴川水系）、清水町（柿田川）、南伊豆町（青野川水系）などでも確認されています。

ナガエツルノゲイトウは河川や溜池、水田、畑などに生育し、茎のちぎれた断片からも根が生えるほど再生力が強く、水辺一面を覆い尽くすほど繁殖力が旺盛です。そのため、水流阻害や農業被害、在来生物の生育環境と競合するなどの悪影響を及ぼします。



ナガエツルノゲイトウの駆除

■対策

ナガエツルノゲイトウの駆除は、早期に発見して、群落が小さいうちに除去することが最も有効です。

駆除方法としては、抜き取り、ビニール等で土壌表面を覆う陽熱処理などが行われています。一度侵入したナガエツルノゲイトウを完全に根絶するためには、粘り強く、複数の手段で継続的に駆除活動が続けていく必要があるため、手に負えなくなる前に対策を積極的に行うことが必要です。



コラム

全国で梅・桜などへの被害拡大、浜松にも侵入が 懸念される特定外来生物・クビアカツヤカミキリ

■分布・生態・被害状況

クビアカツヤカミキリは中国、台湾、朝鮮半島、ベトナムなどを主な原産地とするカミキリムシの仲間（成虫の体長は約25mm）で、静岡県内では未確認ですが、近隣の愛知県、三重県でも確認されており、本市内でも侵入が危惧される生物です。

ウメやモモ、カキが枯死する農業被害や、サクラが枯れることで観光資源が被害を受けるため、クビアカツヤカミキリは大きな経済的影響をもたらします。

成虫は6月から8月にかけて発生し、1,000個以上の卵を産むことがあります。幼虫は木の内部に入り込み2~3年過ごし、幼虫が生息する木からはフラスと呼ばれる大量の木くずや糞が排出されるため、被害を発見する手がかりとなります。

クビアカツヤカミキリ
【資料：森林総合研究所】

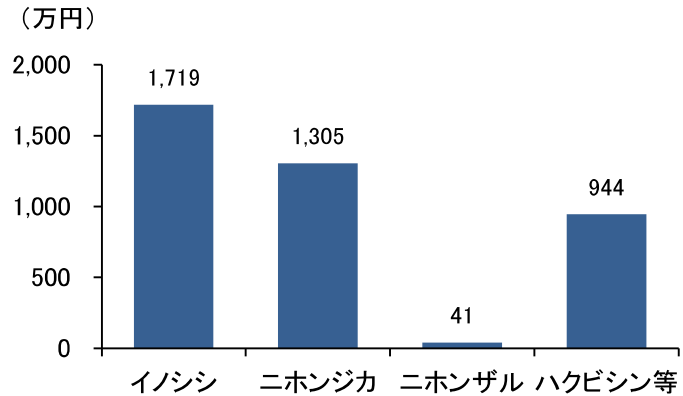
■対策

クビアカツヤカミキリの駆除方法は、伐採駆除、成虫捕殺、成虫が樹木から脱出しないように木の周りをシートなどで囲う方法等があります。クビアカツヤカミキリの成虫やフラスと呼ばれる木くずがある樹木を確認した場合は、市まで情報提供をお願いします。関係主体と連携しながら、防除につなげていく必要があります。

5-4 野生鳥獣被害

◆イノシシなど野生鳥獣による農業被害が発生している

本市では、イノシシ、ニホンジカ、ニホンザルなどに加え、カラス、ハクビシン、アナグマ、アライグマなどの野生鳥獣の農地への出没情報が増加し、農業被害を発生させています。特にイノシシとニホンジカの被害額が多くなっています。野生鳥獣のすみかとなる耕作放棄地や放置竹林などの増加が理由と考えられ、今後、被害の拡大が懸念されます。



野生鳥獣被害金額 (2022 年度)

【資料：令和 4 年度 野生鳥獣による農作物の被害状況調査】

5-5 動植物モニタリング調査

◆動植物モニタリング調査を継続的に実施している

市域の生物多様性の状態がどのように推移しているかを把握するため、本市では定期的に動植物モニタリング調査を実施しています。動植物モニタリング調査は、専門家による調査に加え、市民とともに調査を行う「市民協働調査」があります。



専門家による調査



市民協働調査

モニタリング調査結果(1)

地域	No	モニタリング指標	2013 (平成 25) 年度～2023 (令和 5) 年度モニタリング調査結果
浜名湖・周浜名湖低地	1	カモ類、シギ・チドリ類	浜名湖を越冬場所や生息場所として利用する種としてカモ類、シギ・チドリ類を含む鳥類を対象とした調査を行った結果、2015 (平成 27) 年度は 48 種、2020 (令和 2) 年度調査では 59 種の鳥類が確認されています。
	2	アマモ場(アマモ場に生息する魚介類)	アマモ場の調査では、浜名湖の北の瀬にまとまった生育地が確認されていますが、2020 (令和 2) 年度の調査では、過去に比べてアマモ場が減少傾向にあることがわかりました。また、アマモ場に生息する魚介類についてはこれまでの調査で 70 種を確認しています。
	3	ウラギク、ヒヌマイトトンボ	浜名湖に流れ込む河川の河口付近で、汽水域に特徴的な種(ウラギク、ヒヌマイトトンボ)の調査を行いました。ウラギクは 2 つの河川でまとまった個体が確認されていますが、近年減少傾向にあり、生育環境の悪化が懸念されています。ヒヌマイトトンボはモニタリング調査では確認できませんでしたが、近年、地域で活動する NPO の現地調査でわずかに確認されている状況で、絶滅が危惧されています。
	4	ヨシ(ヨシ原)、オオヨシキリ	浜名湖に流れ込む都田川河口ではヨシ原の調査を行い、ヨシ原の面積やヨシ原を利用するオオヨシキリの生息状況を把握しました。2018 (平成 30) 年度の調査では 5 個体を確認しています。

モニタリング調査結果(2)

地域	No	モニタリング指標	2013(平成25)年度～2023(令和5)年度モニタリング調査結果	
三方原台地 ～ 扇状地	5	ヤリタナゴ、マツカサガイ	浜名湖周辺低地の河川では、ヤリタナゴと産卵に利用されるマツカサガイについて調査を行い、両種とも継続して一定数が確認されていますが、一部の場所では減少傾向にあります。また、マツカサガイがみられる場所とヤリタナゴの生息地が分断されている場所もみられ、ヤリタナゴの移動経路の確保が課題です。	
	6	トウカイタンポポ、セイヨウタンポポ	トウカイタンポポ(在来種)とセイヨウタンポポ(外来種)については中区で調査を行い、2019(令和元)年度の調査では外来種のセイヨウタンポポの割合が多くなってきていますが、在来種のトウカイタンポポ(41個体)の生育を確認しています。	
	7	コシアカツバメ、ツバメ	都市部では巣が減少傾向にあるツバメ類を対象に浜松市南区の芳川公園周辺で調査を行い、ツバメの巣を多数確認しています。	
	8	ミカワバイケイソウ	ミカワバイケイソウについては、2017(平成29)年度に調査を行い、生育地は過年度と比較して変化がないことが確認されています。	
	9	ミクリ類	ミクリ類については、河川で調査を行った結果、ナガエミクリ(準絶滅危惧)を確認しています。	
	10	ホトケドジョウ	ホトケドジョウは市街地周辺の生息地で2016(平成28)年度と2022(令和4)年度に調査を行い、いずれも50個体以上を確認し、生息状況に変化がないことを確認しています。ただし、ホトケドジョウの生息地にみられるアメリカザリガニやブルーギルなど外来種の影響や、湧水の枯渇による生息地消滅の可能性などが課題となっています。	
	引佐丘陵地 ～ 低山地	11	ナゴヤダルマガエル、トノサマガエル	両生類は水田で2016(平成28)年度と2020(令和2)年度に調査を行い、調査対象のナゴヤダルマガエル、トノサマガエルを継続して確認しています。このうち、ナゴヤダルマガエルについては生息環境の消失・悪化と移動経路の分断が課題とされており、生息状況を今後も注視していくことが必要です。
		12	ゲンジボタル	2016(平成28)年度、2021(令和3)年度に滝沢キャンプ場周辺で調査を行い、ゲンジボタルを確認しています。
		13	ギフチョウ	ギフチョウは2015(平成27)年に調査を行い、成虫34個体を確認しています。また、食草のヒメカンアオイについても調査を行い、900個体以上を確認しています。
		14	トンボ類、キツツキ類(かなわ野外活動センター)	キツツキ類については、これまでにコゲラとアオゲラを確認しています。トンボ類については、モノサシトンボなど17種を確認しています。
15		トンボ類、キツツキ類(都田総合公園)	キツツキ類については、これまでにコゲラとアオゲラを確認しています。トンボ類については、ウチワヤンマなど14種を確認しています。	
16		ムラサキミミカキグサ、キキョウ	植物については2013(平成25)年度と2019(令和元)年度に蛇紋岩地帯でムラサキミミカキグサとキキョウについて調査を行っています。ムラサキミミカキグサはもともと数が少なく、近縁のミミカキグサとの競争もあり生育状況は不安定でした。キキョウはいずれの調査でも10箇所以上で確認されており、生育状況に変わりはありませんでした。	
17		アライグマ(特定外来生物)	特定外来生物であるアライグマを対象とし、分布拡大が懸念される地域(北区、西区、浜北区、天竜区)で2013(平成25)年度から2015(平成27)年度にかけて調査を行った結果、北区の8箇所、浜北区の1箇所、合計9箇所アライグマを確認しました。	
天竜川中流山地	18	スギ・ヒノキ植林	FSC*森林認証の取得面積が年々増加しており、施業時には、林内における希少種の生息・生育状況を確認しています。また、静岡県による森の力モニタリング調査が実施されています。	
	19	クマタカ、ヨタカ、サンコウチョウ	森林性の鳥類(クマタカ、ヨタカ、サンコウチョウ)については、2016(平成28)年度と2017(平成29)年度に調査を行い、クマタカ、ヨタカ、サンコウチョウを確認していましたが、2023(令和5)年度調査では、クマタカ、ヨタカのみ確認しています。	

モニタリング調査結果(3)

地域	No	モニタリング指標	2013(平成25)年度～2023(令和5)年度モニタリング調査結果
市全体	20	赤トンボ類	ジオタグ付き写真の投稿による市民参加型調査(WEB)により、ツバメ、トノサマガエル、赤トンボの調査を行っていますが、投稿数が少ない状況です。
	21	ホタル類	2023(令和5)年に森林公園・都田川・引佐・館山寺・富塚で、ゲンジボタルを除くホタル類調査を行い、引佐を除く地点でホタル類(ゲンジボタル、ハイケボタル、ヒメボタル)を確認しています。

動植物モニタリング調査の調査実施年度

No	モニタリング指標	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
浜名湖・浜名湖周辺低地												
1	カモ類、シギ・チドリ類			▲●					●▲			
2	アマモ場(アマモ場に生息する魚介類)			●					●			
3	ウラギク、ヒメマイトトンボ	●	●				●					
4	ヨシ(ヨシ原)、オオヨシキリ	●					●					
5	ヤリタナゴ、マツカサガイ				●			●	●	●	●	●
三方原台地～扇状地												
6	トウカイタンポポ、セイヨウタンポポ	▲						▲				
7	コシアカツバメ、ツバメ	▲										
8	ミカワバイケイソウ					●						
9	ミクリ類	●					●					
10	ホトケドジョウ				●						●	
引佐丘陵地～低山地												
11	ナゴヤダルマガエル、トノサマガエル				▲				▲			
12	ゲンジボタル				▲					▲		
13	ギフチョウ		▲									
14	トンボ類、キツツキ類(かなな野外活動センター)			▲							▲	
15	トンボ類、キツツキ類(都田総合公園)					▲				▲		
16	ムラサキミミカキグサ、キキョウ		●					●				
17	アライグマ(特定外来生物)	●	●	●								
天竜川中流山地												
18	スギ・ヒノキ植林											
19	クマタカ、ヨタカ、サンコウチョウ				●	●						●
市全体												
20	ツバメ類、トノサマガエル、赤トンボ類						◎	◎	◎	◎	◎	◎
21	ホタル類											●

●専門家調査、▲市民協働調査、◎ジオタグ付き写真の投稿による市民参加型調査(WEB)

◆動植物モニタリング指標

本市がこれまで実施してきた動植物モニタリング調査の結果をふまえ、本戦略では動植物モニタリング指標を見直し、17の指標を設定しました。

動植物モニタリング指標

No	モニタリング指標	モニタリング調査方法 ●専門家調査、▲市民協働調査	調査予定年度
浜名湖・周浜名湖低地			
1	カモ類、シギ・チドリ類	●▲定点調査：11～12月（越冬のため飛来する時期）	2025・2030年度
2	アマモ場（アマモ場に生息する魚介類）	●生育・生息状況調査：6～9月	2025・2030年度
3	ウラギク、ヒヌマイトトンボ	●生息生育状況調査：ウラギク 9～11月（開花時期）、ヒヌマイトトンボ 5～9月（成虫の発生時期）	2028・2033年度
4	ヨシ（ヨシ原）、オオヨシキリ	●生息生育状況調査：9月～10月（ヨシ生長ピークの時期）	2028・2033年度
5	ヤリタナゴ、マツカサガイ	●環境DNA調査、個体数・分布範囲調査 ・調査時期：7～8月	環境DNA調査 2024～2026・2028～2031・2033年度、 個体数・分布範囲調査 2027・2032年度
三方原台地～扇状地			
6	ミクリ類	●生育状況調査：7月（開花・結実時期）	2026・2031年度
7	ホトケドジョウ	●生息状況調査：5～10月	2027・2032年度
8	トンボ類・チョウ類（佐鳴湖公園）	▲ラインセンサス調査：7月	2028・2033年
9	カモ類（ミコアイサ含む）・サギ類（佐鳴湖公園）	▲定点調査：1～2月	2027・2032年
引佐丘陵地～低山地			
10	ナゴヤダルマガエル、トノサマガエル	▲ラインセンサス調査 5～6月（早朝から昼まで）	2025・2030年度
11	ゲンジボタル	▲特定地域内の水路を歩き、成虫の個体数または生息範囲を記録：6～7月（成虫の発生時期）	2026・2031年度
12	ギフチョウ	▲ラインセンサス調査：3～4月	2024・2029年度
13	トンボ類、キツツキ類（かわな野外活動センター）	▲ラインセンサス調査・定点調査：7月	2027・2032年度
14	トンボ類、キツツキ類（都田総合公園）	▲ラインセンサス調査・定点調査：7月	2026・2031年度
15	ムラサキミミカキグサ、キキョウ	●生育状況調査：7～9月（開花時期）	2024・2029年度
天竜川			
16	コマツナギとミヤマシジミをはじめとしたチョウ類（天竜川浜北大橋上流）	▲生息生育状況調査：8月下旬～9月（ミヤマシジミ成虫の発生時期）	2028・2033年度
遠州灘海岸砂丘			
17	カワラハンミョウ（中田島砂丘）	▲生息状況調査：7月中旬～8月上旬（成虫の発生時期）	2024・2029年度